

## 神様との疎通の祝福 (マルコ 11:27-33)

ほとんどの人は、何かの問題があれば問題を悩み、また葛藤を覚えたり、もがいたりします。また、人に助言を求めたり、人の助けを求めたりすることが普通です。しかし、誰も神のみことばを求めて神のみことばを聞こうとする人はいません。残念なのは、教会に通っている信者でさえ、問題の前で神のみことばを聞こうとしない、ということです。となると結局、もがいても、また人に助けを求めたとしても、空回りに終わるしかありません。なぜ問題の前で自分なりに突破口を求めたり、悩んだり、あるいは人の助けを求めたりするにもかかわらず空回りになってしまうのでしょうか。それは人は犬や猫のような動物ではない、神様が神のかたちに造られたからなのです。神のかたちに造られたということは、唯一、被造物の中で神様と疎通ができる存在という意味なのです。なのに神様のみことばは聞くこともできないし、聞こうともしないので空回りなるしかありません。マタイ 4:4 を見ますと、イエス様がこのようにおっしゃいます。「イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある」。この聖書の箇所は、たくさん聞いたでしょう。でも、これが本当だとどれほど信じていらっしゃるのでしょうか。ここが欠けてしまうので、結局いくら努力しても、いくら悩んでも空回りになるしかありません。なので、私たちはここで大切なメッセージを心に留めないといけません。

### 1. 人生の不幸は、神様との疎通が途絶えたことにある。

その第一が、人の不幸は、神様との疎通が途絶えたことにあります。

もう一度言います。人の不幸は、神様との疎通が途絶えた結果、現れるものなのです。しかし、人々は自分があまりにも貧しい、貧乏なんだ、それが不幸だと思います。また、病気にかかって病気を患うことになれば、不幸だと思います。事故にあつて大変な目に遭うこと、不幸だと思います。あるいは、人に無視されたり、差別を受けたりすると不幸だと思えます。なかなか人に認めてもらえないということで、歯がゆい思いをします。誤解されたり、濡れ衣を着せられたりすると不幸だと思ってしまう。場合によっては、周りから攻撃を受けることもあるし、いじめられることもあります。だから、不幸だと思ってしまう。ほとんどの人がそうです。それで孤立してしまうこと、孤独を感じることに、一人ぼっちになって寂しさに囚われるようになること、こういうことを不幸だと思います。もちろん、これが幸せとは言いません。

#### 1) 表の不幸と不幸の根本

しかし、本当の不幸は、今取り上げましたこのような内容ではなくて、それを表の不幸と言います。その表の不幸の本当の根本の原因というものがああります。それが今日申し上げましたメッセージなのです。人の不幸は神様との疎通が途絶えたことにあるわけです。そのことが原因で表にあらゆる形として現れただけのものなのです。だから、縮めて申し上げますと、そういったものが不幸ではなくて、神様との疎通が途絶えたこと自体がもう不幸なのです。しかし、人々はこのことが全くわかっていません。教会のほかにも、このことを言ってあげるところがありません。残念ながら教会もこれがなかなか言えない、そういう現実になりつつあります。なので、このことが本当であれば、人間に人生において一番必要なことは、健康になることではなくて、人に認めてもらうことの前には、神様との疎通を回復すること、これこそが人生に人間に何より必要なことに間違いありません。せめて今日礼拝を捧げているレムナント教会の兄弟姉妹の皆さんは、このように心にしっかりと刻んでおかなければなりません。人間に自分自身に人生において最も必要なことは、途絶えてしまった神様との疎通を回復することなんだ。それが回復できない限り、例えば健康を取り戻したとしても幸せとは言えないものなのです。勘違いしないように。そういう意味でイエス様は何を食べるか、何を飲むかを求めないで、神の国を求めなさいとおっしゃいました。これが人生の実像というものなのです。

#### 2) みことばと信仰による疎通

神様は人とどのように疎通をなさる方なんでしょうか。神様が人間と交わるための方法は何でしょうか。神様が私たちの肉眼には見えない霊なのです。「神は霊ですから」と言われているでしょう。ヨハネ4：24に「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません」と言われています。神は霊なので、霊とともに私たちのたましいをもって聖霊の導きによって交わることができるまこと、つまり神のみことばによって疎通できるものなのです。神は見えない方です。だから神様が私たち人間と疎通するために、神様が持ち出した方法が何かと言いますと、みことばなのです。神から発せられる、神から出るみことばなのです。なので、私たちの方からは自分が何かを研究したり発言したりする前に、神から出るみことばを信じる信仰こそが疎通の方法なのです。神のみことばを分析して研究するのではなくて、信じる信仰こそが神様と交わる方法であり、神様と疎通するための方法なのです。だから神様は最初からアダムに現れた時にみことばをもって現れました。この木の実を取って食べてはいけないよ。それを食べると必ず死ぬとみことばをもっておっしゃいました。語られました。これが人間と神様が疎通する方法なのです。

### 3) みことばを捨てて、自分の思うがままに(サタンのささやき)

なのに残念ながらアダムは悪魔に惑わされて、その神のみことばを捨てました。みことばを捨てて自分の思うがままに動いてしまったのです。アダムは自分の思うがままにと思っていたのでしょうかけれども、神のみことばを捨てた裏側が自分の思うがままなので、それは悪魔サタンのささやきであり、悪魔の言葉に従うこととなります。思うがまま、自分の思いのまま、それは結構良さそうに聞こえるかもしれませんがとてもとても危険なものなのです。世の中ではそれを賞賛します。ありのままで〜とか。それがヒューマニズムなのです。失敗しても諦めないで。あなたの思い次第、考え次第なんだ、というふうに勧めるのです。それで立ち上がる人間もいます。それは勝利でも成功でも幸せでも何でもありません。人間が何か分かっているならば、神様と疎通しないといけないのに、みことばを捨てて自分の思うがままに動いてしまい、結局、悪魔サタンの奴隷となってしまいました。それ以来、人間は本能的に神様のみことばを聞こうとしません。疎通が完璧に遮断されて、遮断されただけではなくて、神のみことばを聞くか聞かないかではなくて、積極的に聞かない方に動く存在になってしまいました。それで創世記19：14を見ますと、ソドムとゴモラが滅びる時に、ロトが向こうたちにそのことを知らせます。その向こうたちがどういう風に反応したのでしょうか。立ってこの町から出て行きなさい。主がこの町を滅ぼそうとしておられるから。しかし、彼らはそれを冗談のように思いました。神のみことばが伝えられる時に冗談に思うようになります。それで結局、自分の考え通りに、自分の思うがままに動くようになります。それで向こうたちは滅びることになりました。そういうことの続きなのです。士師記21：25を見ますと、「そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えるこを行っていた」。自分のレベルで、自分の思いで、自分の基準で、自分、自分、自分なんですね。なぜなのでしょう。神様との疎通が途絶えて、つまり神のみことばが途絶えてしまったからなのです。みことばが聞こえないということは、小さなことではありません。神のみことばが聞こえなくても、それがよくわからなくても、学校の勉強がうまくできれば優秀な人間になるだろうと思うかもしれません。勘違い中の勘違いなのです。人間は犬ではありません。人間はペットではありません。ペットを家族の一員と思い、大事にすることは良いけれども、災害の時に家族を置いて避難するわけにはいかないからと一緒に死んでしまう人が結構多いみたいです。よく考えないとはいけません。人間は動物と家族でもないし、一緒にしてはいけません。それが悪魔が作り上げた世の風潮なのです。これは動物を虐待してもいいという変な話ではありません。大事に大事にしないとはいけません。神様が造られた創造の世界を大事にしないとはいけません。それと、動物が人間と一緒に思い込むということが別次元の話です。イエス様が世に来られるまでの間、イスラエルの歴史の中に400年間、中間期という時期がありました。それを暗黒期とも言います。なぜでしょうか。その400年間、神様の啓示のみことばが完璧に途絶えていたから、そのように言うわけです。そしてその前に、Iサムエル3：1、サムエルの時代にエリという祭司がいたにもかかわらず、「少年サムエルはエリの前で主に仕えていた。そのころ、主のことはまれにしかなく、幻も示されなかった」。それが暗黒時代であり、イエス様が来られる前の400年の間も同じ時期があったわけです。それでエペソ2：1-3を見ますと、このように記されています。「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました」。結果「私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでし

た」。わかりますか。神のみことばが途絶えて、神との疎通が途絶えた結果、肉の欲のまま、心の望むまま行いということを経験するべき理由として取り上げられているということを知っていただき。

#### 4) 自分の思いと世論(人の声)に囚われて

結局、アダム以来、人々は、神様との疎通が途絶えて、みことばが途絶えてしまった結果、自分の思いに囚われて、そして世、人の声に囚われて、それが頑なになっているので、神のみことばを聞くことができない状態になってしまいました。今日の聖書の箇所を見ますと、律法学者、パリサイ人たちが、イエス様が神殿で怒りを露わにしたことに対して、「あなたは何の権限でそういうことができるのか。誰のの許可によってそういうことができるんですか」と質問しました。そうすると、イエス様はこれこそ神様から任されたことであり、キリストの権限なんだとおっしゃればいいのではないのでしょうか。なのにイエス様は返事、答えをせずに逆に質問されます。「一つ聞いてみよう。ヨハネのバプテスマが天からのものなのか、人からのものなのか」と聞きました。彼らは真理のみことばがどうのこうのは全く興味などありません。神様が何をおっしゃるのか、それには興味がありません。自分たちの思いで頑なになっているので、天からのものだというと、なんで信じないと言われるし、人からのものだと言われると、群衆がみなバプテスマのヨハネは預言者だと称賛しているから、その世論に反することになるので、どっちにもつくことができないから、結局分かりませんと返事をしました。だからイエス様は「ならばわたしも言いません」。神のみことばが疎通できるような余地が1mmもありません。つまり、彼らは最初から聞く耳を持っていないし、聞くこともできないし、聞こうともしていないわけです。そういうことをイエス様がちゃんと見透しておっしゃらずに逆質問をなさっていた場面なのです。このように自分の思いに囚われていると、人の意見、人の声というものに囚われていると、神のみことばが聞けないわけです。その結果、パリサイ人、律法学者のように、また聖書の歴史から見られるように滅びてしまったその道を歩くようになるしかありません。神様はこのような人を憐れみ愛して、神様との疎通を回復することを願っていらっしゃいます。

#### 5) 疎通の回復-みことばで訪れて来られる。

それで神様は疎通の回復のために、疎通の手段はみことばでしょう。だから、みことばをもって訪ねて来られます。疎通のために。礼拝がなぜ大切なのか、改めて考えてみてください。誰が喋るのか問題ではありません。疎通の回復、人間にとって一番大切な神様との疎通の回復のために神様はみことばをもって訪れて来られる方なのです。ノアのおきもノアに神様はみことばをもって現れて箱舟を作りなさいとおっしゃいました。アブラハムを召された時にも、神様はみことばをもって神の御声とともに「ここを離れて約束の地、カナンに行きなさい」とおっしゃいました。モーセが召されたときも同じなのです。そして、このように旧約の時代、みことばをもって疎通の回復のために現れていた神様は、究極的にみことばそのものであるキリストがこの世に来られることで疎通の回復を図ることになりました。ヨハネ1:14にこう書いてあります。「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた」。この世に来られたキリスト、イエス様その方は、みことばそのものなのです。だから、途絶えてしまった神様との疎通、すべての不幸の原因であり、不幸そのものを解消するための神様との疎通の回復のためにキリストがみことばとしてこの世に来られました。だから、神様との疎通の回復はみことばであるイエス・キリストを通して可能になります。誰でもです。ことばは人となってこの世に来られました。悪魔のしわざを打ち壊して勝利なさるイエス・キリストを心に受け入れることで、神様の疎通が回復できるようになります。なぜなのでしょう。イエス・キリストはみことばそのものですから誰でもなのです。イスラエルの人だけではなくて、異邦人でも子どもでも老人でも。今三歳四歳の子どもの話をしても分かるかよと最初から親があきらめて、あるいは教会の信徒へ教師たちがあきらめて、そういう思いでアプローチするかもしれません。しかし、みことばによる疎通というものは、子どもなのか老人なのかイスラエルの人なのか異邦人なのかはまったく関係ありません。みことばであるイエス・キリストを受け入れた人であれば、これからみことばによって神様と疎通が可能な状態に作り変えられて、可能な存在に作り替えられているんだということを忘れないようにしてください。これこそが幸せなのです。イエス・キリストを受け入れることで、今まで疎通が途絶えていた、その不幸な人生がその場で終わります。つまり、幸せな人生に切り変わ

ります。そして何より今まで途絶えていた神様との疎通がやっと可能な存在になったということなのです。なんと幸いでしょうか。ここからスタートなのです。勉強の前に。また、スキルを磨く前に、神様との疎通の回復が何より大切なことなのです。神様はイエス・キリストをこの世に送って、それでそのキリストを受け入れることで神様との疎通が回復できるようにしました。これから神のみことば聞ける人間に、神のみことば聞こえてきて、その人の心にとどまる人間に作り変えられるわけです。それが神様の目的なのです。このようにしてイエス・キリストを受け入れたものは、神様と疎通が回復できているもの、不幸な人生が終わり、幸せな人生に切り替わったということを感じていてください。それで誰でも今誰かに指さされるもの、今、本当はイエス様を心に受け入れたにもかかわらず、古いさまざまなものが残っていて、いろんな失敗を重ねて自分が嫌になるほど、トラブルが多い人でも構いません。イエス・キリストを受け入れた人であれば。忘れないように。神様との疎通が可能なものになった。ならば、神様との疎通にこだわるべきです。今までこだわっていたこと、そこを後にして。せっかく新しいマンションに引っ越しました。新しいマンションでどういう風楽しく過ごせるか、それにこだわるべきでしょう。前に住んでいた壊れかけてる家にこだわって、もはや私の所有でもないのに、いつもそれにこだわってそこに行ってみたり、どうなってるのだろうか...、それはアホらしです。誰でもイエス・キリストを受け入れた者は、神様との疎通が回復できて、これから今まで途絶えて全く壁だった神様との疎通が可能になったということを感じて感謝しましょう。イエス・キリストが十字架で死なれるときに、その体が引き裂かれるときに、神様と私たちの間でその遮られていた分厚いカーテンが上から下に真っ二つに破れました。疎通が可能になったということです。

## 2. みことばによる神様と疎通ですべてが変わる。(ヘブル4:12)

ならば、心にもう一つ覚えなれないとけないことが二番目です。このみことばによって、これから神様との疎通を回復していきますと、実際に疎通を行なっていきますと、すべてが変わるようになります。これがみことばの力です。残念ながら、今日イエス様に質問していたパリサイ人たちは、最初から聞く耳を持たないで聞こうともしないで、ということが今日読み取れるわけです。しかし、私たちは違います。神の恵みによって、みことばであるイエス・キリスト受け入れていのちあるものになりましたので、これからは幼い子どもでも、過去何をしていたのか関係なく、肌色がどうなのか関係なく、神様のみことばが聞こえてくる存在になりました。それを喜んで第一にこだわるのが成功なのです。となると必ず皆さんの力と関係なくすべてが変わります。ヘブル4:12には「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます」。神のみことばが皆さんに具体的に実際的に入って動くようになれば必ず変わります。これを癒しと言います。

### 1) 自分自身の変化

#### ①自分から自由

2部礼拝でまた癒しについて申し上げますが、だから癒されたいなあという思いがある人は、人をお願いしたりしないでください。神のみことばが私に入って動くようになれば私は変わります。どういうふうになるのか。まず自分自身が変わります。どのように変わるか言いますと、今まで知っていた自分、自分がわかっている自分から自由になります。今まで自分がわかっていた自分というのは、実は神様との疎通が途絶えたまま、悪魔に支配されるままの中で出来上がったものなので、全部悪魔サタンに洗脳されたものなのです。そこからやっと神のみことばが入って光が入りこむようになり、疎通ができるようになります。自由になります。Ⅱコリント5:17、古いものは過ぎ去り。今まで自分がわかっていた自分、それは過ぎ去り、すべてが新しくなったというみことばが疎通になれば自由になります。エペソ1:3、刑務所の中にいるのにも関わらず、天にあるすべての霊的祝福を与えられている幸いなものなんだというみことばが、その人の心の中に入って、そのみことばによって疎通ができれば、今まで自分がわかっていた自分から自由になります。皆さん、今まで自分で思ってわかっていた自分から自由になりたくないんでしょうか。なりたいたいでしょう。みことばの疎通です。みことばには力があります。人間が変わるのは神様との疎通、みことばによる疎通によるものなのです。他に何かを期待しないように。

#### ②世に対する欲望から自由

そして、この世に対する欲望から自由になります。今までは当たり前前に創世記 3.6.11 章、つまり、自分が上手くいくこと、肉体的に裕福になること、この世において成功を収めることというものが目標であり、願いであり、欲望でした。しかし、そこに神のみことばが入ります。あなたがやば三位一体の神様がともにおられる存在。その神様があなたがたの主人なんだよ。自分がうまく、自分のなんとかということが碎かれて自由になります。あなたがたは三位一体の神様がともにおられるので、その神様が御座の祝福をもってあなたがたに臨まれる。御座の祝福があなたがたのものであり祝福なんだというみことばによって、肉的なさまざまな欲望から自由になります。それから、あなたがたは成功のためにこの世を生きるものではなくて、滅びるしかないこの世を助けて生かすために召されている証人なんだよというみことばが入ってきて、疎通できたときに、この世に対する欲望から自由になります。この世に未練など持つことなどありません。使命によってこの世を生きるようになります。みことばが本当に疎通できれば、その結果、この世を恐れることもなく、羨むこともなく、執着することもなく、未練を持つこともありません。なぜでしょう。みことばがその人に刻まれれば。でも、実際、クリスチャンでもなかなかそうならないでしょう。みことばをたくさん聞いているのに、実際疎通していないからです。みことばが皆さんのものになっていないからです。

### ③ 言い訳から自由

それから、今までは何かの条件、環境、状況などで誰かのせい、何かのせいにすることが当たり前なのです。良いか悪いかは別にして。それを言い訳と言います。言い訳から自由な人間になります。なぜでしょう。今まではそうなるしかありませんでした。神様の疎通がないので、神のみことばが途絶えていたので。そこにキリスト・イエスを受け入れたそのいのちの方に、「それらはあなたがたは知らなくてもいいです。聖霊が臨まれると、力を得て、地の果てにまでイエスの証人となるよ」というみことばが疎通できれば言い訳から自由になります。条件がどうであれ、環境、状況がどうであれ構いません。超越の人間になるわけです。それがみことばの力なのです。でも皆さんはついつい環境が変われば条件にこだわって、それに振り回されてるでしょう。なぜでしょう。あなたがたは知らなくてもいいよ。聖霊が臨まれると、力を得て、地の果てまで証人となるよというみことばが届いてないからです。疎通できていないのです。耳周りでウロウロしているだけなのです。なぜなら礼拝のときにメッセージを聞いてても「このみことばこそが疎通のための手段なんだ。それによって私は必ず変わる」という思いで聞いていないからです。結論のほうで申し上げますけれども、礼拝をささげている、神のみことばを聞いているということがどれほどの奇跡、どれほどの祝福なのかを改めないといけません。

## 2) 教会の変化

### ① 講壇② 職分③ エペソ 4:16④ みことばによる一致

そして、このようにみことばの疎通によって自分自身が変わった人は、その人によって教会も変わります。なぜかという、教会がどれほど大事なかが目が開かれて、講壇がどのようなものなのかがわかるので、講壇を大事にして、自分に与えられている職に対して大事にすることになります。そして、教会の信徒を見るときにも今までと違うエペソ 4:16 に書いてあるように、「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです」。信徒ひとりひとりが、キリストのからだの一部分だということが分かるようになるので信徒を大事にします。教会には多様な人が誰でも集まれるところです。肌色や国籍、性格も学歴も社会的な地位、身分などがいろいろ違います。そして年も違います。にもかかわらず、それを尊重しながら、それが前に走るのではなくて、みことばが第一にあってみことばによって一致を保つようになります。だから教会は変わるようになります。教会を愛することになります。自分の主張をするのではなくて、他人を自分より優れたものとみなして、愛をもって仕えるようになります。だから教会が変わるようになります。多様性の中でみことばによる一致というものがあります。

## 3) 現場の変化

エペソ 2:1-3、マタイ 5:14、11 コリント 5:20、エペソ 1:23、ルカ 10:19

そして、このように自分自身が変わって教会が変わるようになりますと、現場が変わるようになります。

これがみことばの力、疎通の力なのです。現場はどのような現場でしょうか。それぞれいろいろな現場がありますが、現場は根本的にエペソ 2 : 1-3 に書いてあるように、罪と罪過の中に死んでいて、空中の権威を持つ支配者が支配して、世の流れに流されていて、生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとなっているところなのです。絶対キリストの福音でないと希望のないところなのです。そこに私たちが社員として誰かとしてではなくて、マタイ 5 : 14、その暗闇の現場に光として派遣されているものなのです。そこで光を放つようになります。なぜ今話すことがないのでしょうか。一番、二番の変化を経験していないからです。どうすればいいのでしょうか。その前に神様の疎通が人間にとって大事なんだ。キリストによってそれが可能になった。だから、あらゆる事情があるけれども、神様との疎通、その手段はみことばで、その疎通に大事にこだわらましようとなれば、現場で光を放つものになります。それをやぐらと言います。Ⅱコリント 5 : 20 には、私たちがキリストの使節として派遣されていると言われています。キリストの使節。エペソ 1 : 23 には、キリストのからだなる教会、つまり私たちが現場に行きますと、私を通してキリストの愛と力とキリストのわざがその現場に現わされるようになっていくということなのです。そのためにルカ 10 : 19 を見ますと、暗闇の力が支配して邪魔するので、それに十分打ち勝って現場を助けることができる権威が授けられているんだ。蛇とサソリを踏み込む力が私たちには許されているわけです。何のために蛇とサソリを踏みつける権威が私たちに必要なのでしょうか。教会に集まるだけでは、集中訓練だけではそれはいきりません。これから皆さんがいる現場に誰かが一緒にいれば一緒にやればいいし、いなければ一人で十分です。現場教会として現場に光を放つ永遠のいのちに定められている人、神様が備えられているたましいを助けるためにここに私は立たされているんだとそれを夢みて、契約として握って祈るクリスチャンになりましょう。どのような現場でも構いません。大学に入るときにそうしなさいと言いましたけれども、たぶんさっぱり忘れたでしょう。それでもう三年四年過ぎました。ただその契約を握って祈ればいいのです。皆さんが教会に集まることはとてもとても大切なことです。多くの人が礼拝なども軽んじているこの時代に本当に感謝なことなのです。しかし、それが避難所みたいに教会に集まってまあ守った、良かったな、で終わってはいけません。サミットはそこで信仰が高くなる人ではなくて、現場を見て現場に重荷を持つようになる人をサミットと言います。現場が心になればサミットとはほど遠い状態です。できるかできないかなどは、あなたがたは知らなくてもいいよというみことばを聞いてください。それを今日のメッセージを通して神様と疎通しました。それを繰り返し繰り返し黙想することは疎通なんです。神様はずっと繰り返して皆さんに語りかけられるでしょう。黙想するたびに。刻印が変わり、自分が変わり、教会が変わり、現場が変わる奇跡を見るようになります。これほどみことばによって神様と疎通することがすべてなのです。そこに癒しがあり、変化があり、奇跡があり、勝利があり、未来があり、ビジョンがあり、全部があります。なぜならみことばはキリストですから。

なので結論です。先ほども申し上げましたけれども、私たちが神のみことばが聞けるということを経験だと思ひ、感謝しましょう。今日のパリサイ人のように話しても聞けないものが数多くあります。聞こうともしません。なのに、神のみことばが聞ける場に来ることができた、それが聞こえてくるんだ。これに感謝しましょう。だからその神のみことばを聞くということを大事に大事にしましょう。それでこれからは自分の思い、考えや人の声は、本当は参考に過ぎないものでいらないんだということを心から認めましょう。どんな思いがあれ、皆さんの思いのままに走ると失敗なのです。それに対して皆さんの思いではなくて、神のみことばが必ずあるわけですから。留まってみことばによる疎通の方に入ろうとしないといけません。これから福音宣教のために、またサミットになるために、自分の専門分野に対してはできればさまざまな資料やいろいろな本などを漁るように。これ編集と言いました。これは非常に大切なのです。でも、ただ漁って編集するだけのものではありません。そこに答えがあるわけではありません。必ず答えは聖書のみことばから見つけ出さないとはいけません。だから、その資料や本などを漁って編集する人もとても大切なのですが、うっかりすると誤解しがちなのです。それをずっと編集すると何か浮かび上がります。しかし、それが答えではありません。それが私が行くべき方向にはなるのですが、百人、千人が喋ったことを全部まとめて、そこで何か浮かび上がっても答えはありません。聖書にしかありません。柳先生が伝道に対してすべてを漁って答えは聖書から見つかったとおっしゃっていることと同じことです。つまり自分の声、人の意見などは参考に過ぎないもので、極端に申し上げるといらないのです。精神病が癒される鍵は自分の思いが間違っている、いらないとなる瞬間なのですが、サタンがそうならないようにぎゅっと握っているのです。そこなのです。そこにみことばの光が当たるように。自分の思いに執着するよう

にしている悪霊が逃げ去るように。みことば以外にはありません。みことばの力を信じて体験しないといけません。疎通の祝福です。

なので自分の思い、人の声などを取り除いて、神のみことばを味わいましょう。神のみことばは何でしょうか。神のみことば、聖書 66 巻をぎゅーっと縮めたものが 393 です。393 を何かの図式のように思わないで、それがみことばなのです。それと疎通しないといけません。イエスがキリストなので、イエス・キリストを受け入れたものは必ず三位一体の神様がともにおられて働くんだ、これがみことばなのです。だから、そのイエス・キリストを受け入れたクリスチャンには、御座の祝福と御座の力と御座の光がその人の内側を強めて、その人に空前絶後の祝福を通してこの時代を生かす、教会を生かす証人としての力が与えられる。これがみことばなのです。創世記から黙示録、どこを見てもそのような内容です。わかりますか。このみことばを味わう祈りをしましょう。2 部礼拝でもう少し細かく申し上げますけれども。

そして、そのみことばを味わう祈り、これは同じ内容を繰り返すという意味ではありません。みことばは生きています。昨日ご飯を食べたら今日はご飯はいらないのでしょくか。同じご飯でも毎回食べないといけません。いのちあるから。神のみことばは生きて働くものなので。今 393 のこのみことばを繰り返し、繰り返し、同じことを反復すると思わないで、それこそがすべてのみことなんだと思って味わう祈りに取り組みましょう。そのうえに毎週講壇から流れるメッセージに乗るようにしましょう。この 393 の神のみことばが、その時、その人に合わせて講壇から流れるようになるのです。だから流れ、流れということが出ます。講壇のメッセージの流れに乗るように。それを手助けするために、今日のデボーションとかフォーラムとかを牧師が出しますが、本当はそれがなくても皆さんがやらないといけません。けれども、まずそういう風にしてでも講壇の流れに乗りましょう。それで皆さんの考えと思いが碎かれるほど講壇のメッセージが祈りとなって、知らないうちに自分の古い刻印が壊れることを経験して、そうすると癒しを体験するようになります。癒しを体験するようになりますと、サミットとして立たされることになります。それが神様の目的です。神様の疎通、その祝福の主人公なんだという自負を持って、みことばによる疎通です。神を見ようとするとダメなんです。神は見えない方です。みことば。霊なのでみことばが与えられました。私たちは何も文句言わないで条件付けしないで信じることです。分析ではなくて、信じることです。それによって神様の疎通の回復による奇跡の変化の主人公になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。罪によって途絶えてしまった神様との疎通の祝福、人間のまことの幸せ。それがキリスト・イエスによって回復できて、イエス・キリストを受け入れた私たちには、これからみことばによって神様との疎通が可能な幸いなものであることを覚えて、ほかの何かにこだわる前に、自分の思いや人の意見等後にして神のみことばにこだわり、そのみことば黙想してみことばが疎通になるように、それで証人として用いられるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン